

平成 26 年度第 3 回向日市総合計画等外部評価委員会

議事要点録

○ 日 時 平成 27 年 2 月 16 日（月）午後 1 時から 2 時まで

○ 場 所 向日市役所 3 階 大会議室

○ 出席者 （委員）中村委員、齋藤委員、香本委員、原田委員
（説明員）

重点施策	担当部局		出席者	
市民が取り組む健康づくりへの支援	健康福祉部	健康推進課	井口課長	尾崎主幹

（事務局）水上市長公室次長兼秘書広報課長、野田企画調整課長、
長谷川課長補佐、三好主任、上野主任

○ 傍聴者 3 名

○ 内 容 下記のとおり

（1）重点施策評価

①市民が取り組む健康づくりへの支援

【意見の要旨】

①市民が取り組む健康づくりへの支援

担当者：【施策の概要について説明】

委員：資料に記載されている「JMICC スタディ研究事業」とはどのような事業か。

担当者：京都府立医科大学が実施している研究であり、協力を得られた市民の食事記録を提供している。

委員：府立医科大学の研究事業で、健康増進のために実施しているということか。

担当者：そうである。

委員：「市民の健康づくりに関する協定」の協定先に、京都府立医科大学とオムロンヘルスケア株式会社が選ばれたのはなぜか。

担当者：京都府立医科大学は、地域医療への貢献に積極的に取り組んでおられ、これまでからも、本市と共催で健康講座を開催するなどの協力関係がある。オムロンヘルスケア株式会社は地元企業であり、社として「市民の方々に自社の研究成果を還元していきたい」という思いを持たれている。

委員：この協定はそれぞれとではなく3者で結ばれているが「3者で何かをする」という性質のものか。例えば、この話を聞いた向日市内の他の企業から協力の申し出があった場合、どのように対応するのか。

担当者：協定そのものを広げていくということは検討していないが、市の事業に協力・ご寄付をいただいている地元企業がもう1社あるので、来年度から「向日市民健康づくり会議」に参加していただき、同様の協力関係を結ぶ計画をしている。

委員：向日市健康づくり計画は平成25年3月に策定されているが、流れとしては、協定を結んだあとに計画ができたということか。

担当者：向日市保健計画は10年以上前からある。向日市保健計画と特定健康診査等実施計画がそれぞれ見直しの時期に来ていたため、一体化させ、平成25年3月に向日市健康づくり計画として新たに策定した。

委員：事業に参加される方の固定化と高齢化を懸念されていたが、何か対策は講じているのか。人の入れ代わりがないと、活性化するのは難しいと思うが。

担当者：出前講座は要請があれば出向く、という形式で事業実施しており、広報紙や自治会への呼びかけも行っている。健康づくりについては、若い世代から考えてもらいたいので、子育て関係の団体にもアピールしていきたいと考えている。

委員：平成24年度と25年度の事業費を比較すると、25年度が24年度の倍額になっているが、原因は何か。

担当者：24年度と25年度の大きな違いは、食生活改善推進員協議会の養成講座の開催である。また、シンポジウムの形式を変えたため、外部協力者への謝金なども入ってきている。食生活改善推進員協議会には、多いときには50人近く会員がいたが、高齢化とともに人数が減少していた。とても良い活動をしているにもかかわらず、会の存続が危ぶまれるということで、10年ぶりに養成講座を開催した。その結果、23人を新たに養成し、活動を継続しておられるところである。

委員：来年度は養成講座を開催しないのか。

担当者：当面は実施しない。今後は健康推進課の保健師や栄養士が、日常業務の中で育成支援をしていく。

委員：オムロンヘルスケア株式会社と京都府立医科大学と協定を締結し、研究に協力しているということであるが、市にとってのメリットはどのようなことがあるのか。食事記録を提供しているということなので、個人情報の取り扱いについても確認したい。

担当者：食事記録の提供は、京都府立医科大学に対してのみである。記録提供に協力いただいた方については、提供いただく前に血流の流れ具合や血圧などを測定し、その数値に対するアドバイスを受けている。市に対しては、健康づくり会議への参加や健康講座のテーマ設定などに対するアドバイス、広報紙への寄稿など、全て無償でしていただいている。オムロンヘルスケア株式会社にも、講師派遣や健康ウォーク開催時の会場およびカロリーカウンターの提

供など、全て無償で協力いただいている。

委員：健康推進課の業務として、虫歯予防や歯科健診の啓発は行っているか。行っているならば、どのように広報しているのか。

担当者：子どもの歯科健診は、1歳9か月健診や3歳児健診と合わせて実施している。また、その間に2歳半の歯の健康教室も開催しており、いずれも個別通知で案内している。その他に年1回、乙訓歯科医師会と共催イベントを開催しているが、それは広報やチラシで案内をしている。

委員：主に子ども向けに行っているということか。

担当者：そうである。成人については今のところ「歯のひろば」のみである。

委員：健康というどうしても、内臓などを考えがちであるが、歯についても健康増進の取り組みに力を入れても良いと思う。

委員：時々イベントに参加しているが、楽しく、良い活動だと思う。健康というどうしても内臓関係に目を向けがちだが、今回の資料に「脳の学習」とあった。「認知症」と言うと敷居が高くなるが、認知症予防の一手手前の活動として実施しているのであれば、ぜひ広げていただきたい。計算や英語などを継続的にできるような学習施設があると良いと思う。

担当者：生活習慣病や認知症の予防につながるよう、脳の成り立ちから学ぶ講座になっている。脳の血管がどのようになっているか、老化させないためにはどのような生活が必要か、というように展開していく。

委員：体を動かすとなると億劫に思う人も多いが、このような講座であれば行きやすいのでは。市がきっかけ作りをすれば、これまでこもりがちだった方も外へ出てきやすく、つながりが広がると思う。

【判定】

- ① 実施手法 : A (委員全員がA)
- ② 進行状況 : A (委員全員がA)

付帯意見：「市民の健康づくりに関する協定」においては、個人情報の取り扱いが適正になされている。健康づくり計画の基本指針に基づき、実効性が高まるよう施策を組み立てており、市民の健康管理や維持増進に効果が出ていると見受けられる。